

## 第4章 学外の勉学活動・課外活動

### 1.学外の勉学の有無

知識・技術や資格取得のために学外の各種学校又は通信教育などの利用経験がある学生は11.4%。法学部第一部の18.8%から工学部の4.1%まで学部間のバラつきが大。6年前から微増傾向。

本学入学以来、知識・技術や資格の取得のために学外の各種学校（自動車教習所は除く）又は通信教育などを利用したことがある学生は全体の11.4%となっています。

学部別に見ると、法学部第一部で18.8%と最も高く、商学部（17.2%）・文理学部（16.8%）・経済学部（15.5%）の順で高くなっています。一方、工学部と理工学部では4%台と低く、学部によりバラつきが見られます。

経年変化を見ると、学外の各種学校に通ったことがある学生の比率は、平成3年度が16.3%でピーク、平成18年度まで約13%～14%台で推移、平成21年度から減少傾向が見られていましたが、平成27年度以降微増傾向となっています。ただし、この増加は、平成27年度以降、調査票の質問文に「通信教育」を加えたことが影響しているのかもしれませんが。

図4-1 学外の勉学の有無（平成30年度全体・学部別・経年変化）

|          | あり    | なし    |
|----------|-------|-------|
| 平成30年度全体 | 11.4% | 88.6% |
| 法学部第一部   | 18.8% | 81.3% |
| 文理学部     | 16.8% | 83.2% |
| 経済学部     | 15.5% | 84.5% |
| 商学部      | 17.2% | 82.8% |
| 芸術学部     | 10.3% | 89.7% |
| 国際関係学部   | 13.6% | 86.4% |
| 危機管理学部   | 8.7%  | 91.3% |
| スポーツ科学部  | 8.8%  | 91.2% |
| 理工学部     | 4.8%  | 95.2% |
| 生産工学部    | 7.1%  | 92.9% |
| 工学部      | 4.1%  | 95.9% |
| 医学部      | 10.7% | 89.3% |
| 歯学部      | 6.6%  | 93.4% |
| 松戸歯学部    | 8.0%  | 92.0% |
| 生物資源科学部  | 8.7%  | 91.3% |
| 薬学部      | 5.7%  | 94.3% |
| 昭和63年度   | 13.9% | 86.1% |
| 平成3年度    | 16.3% | 83.7% |
| 平成6年度    | 12.8% | 87.2% |
| 平成9年度    | 14.6% | 85.4% |
| 平成12年度   | 14.8% | 85.2% |
| 平成15年度   | 12.9% | 87.1% |
| 平成18年度   | 13.1% | 86.9% |
| 平成21年度   | 11.2% | 88.8% |
| 平成24年度   | 9.8%  | 90.2% |
| 平成27年度   | 10.4% | 89.6% |
| 平成30年度   | 11.4% | 88.6% |

## 2.学部別 学外の勉学の有無の経年変化

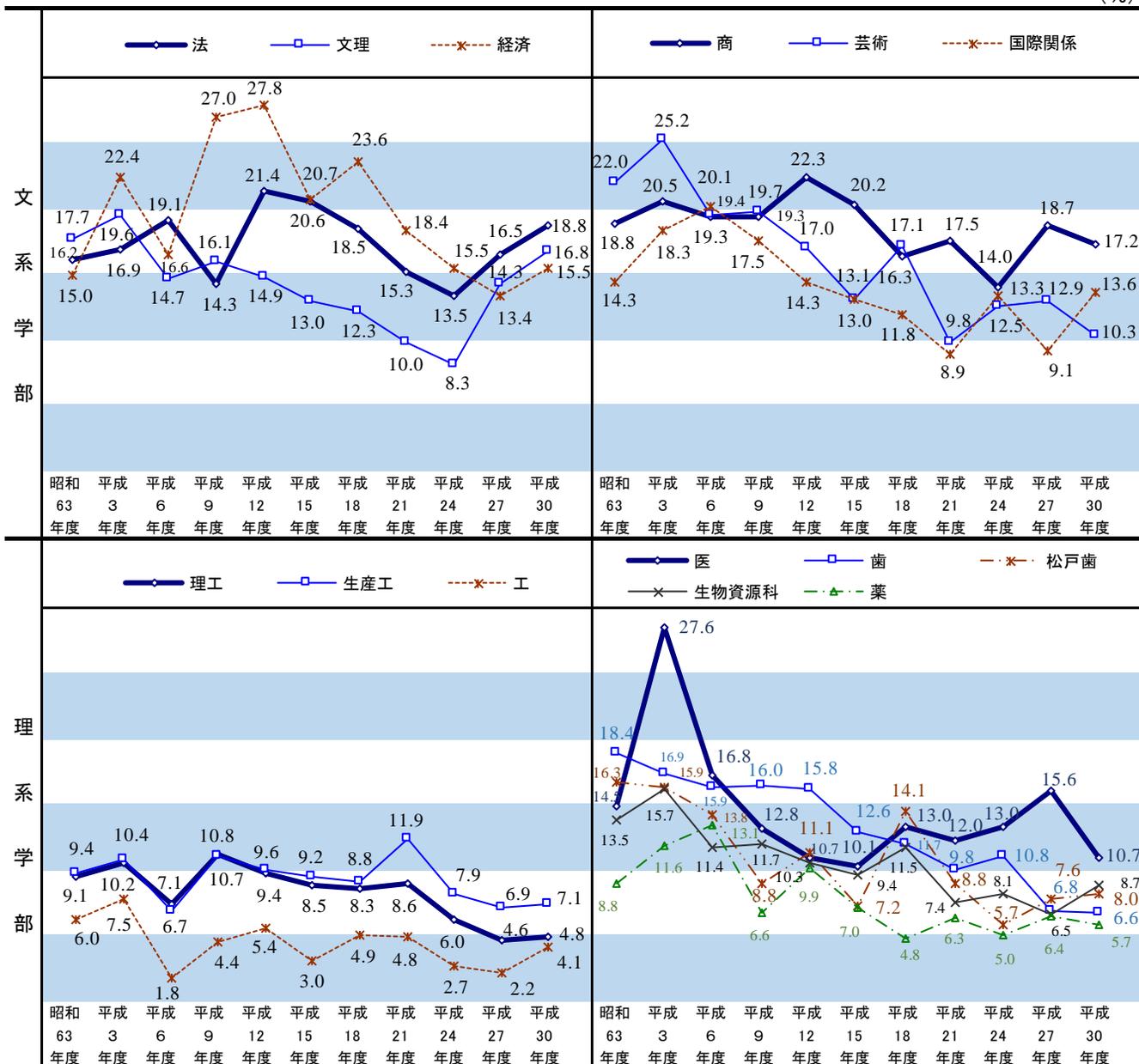
知識・技術や資格取得のための学外での勉学の減少傾向に歯止め？  
3年間に9学部で増加，文理学部・法学部第一部は6年前から回復。

大学入学以来，知識・技術や資格の取得のために学外の各種学校（自動車教習所は除く）又は通信教育などを利用したことがある比率の学部別経年変化を見たものが下図です（但し，通信教育を加えたのは平成27年度から）。

経済学部を見ると平成12年度の27.8%（14学部で過去最高）をピークに平成27年度まで概ね減少傾向でしたが，平成30年度は増加に転じています。また，平成12年度に最も高かった法学部第一部を見ると，平成24年度まで漸減傾向でしたが，平成27年度以降増加傾向となっています。文理学部も平成3年度の19.6%以降概ね減少傾向にありましたが，この6年間では8.5ポイント増加しています。学外の勉学の比率は，全体としては減少傾向にありましたが，直近の3年間では人文系6学部中4学部，工学系3学部など9学部で増加が見られます。

図4-2 学外の勉学の比率の経年変化（学部別）

(%)



### 3.学外の勉学の理由

学外で勉学をする理由は「資格を得たい」「就職に有利」「授業ではもの足りない」の順。経年変化を見ると、学外で勉学する学生に『就職』または『授業』を意識する傾向。

学外で勉学をする理由を見ると、「資格を得たいから」が23.8%で最も高く、「就職に有利だから」（17.8%）、「大学の授業ではもの足りないから」（17.2%）が続いています。

経年変化を見ると、「資格を得たいから」は平成3年度の37.2%から、「技術を身につけたいから」は平成9年度の12.2%からそれぞれ概ね漸減傾向、「就職に有利だから」は同年度の5.2%から概ね増加傾向となっており、就職を意識した学外の勉学志向が高まっているようです。また、「大学の授業ではもの足りないから」は昭和63年度の7.7%から、「大学の授業についていくため」は平成3年度の1.1%からそれぞれ概ね漸増傾向となっており、大学の授業に対する意識も高まっていることがうかがえます。

図4-3-1 学外の勉学の理由(平成30年度「学外の勉学経験がある」学生全体)

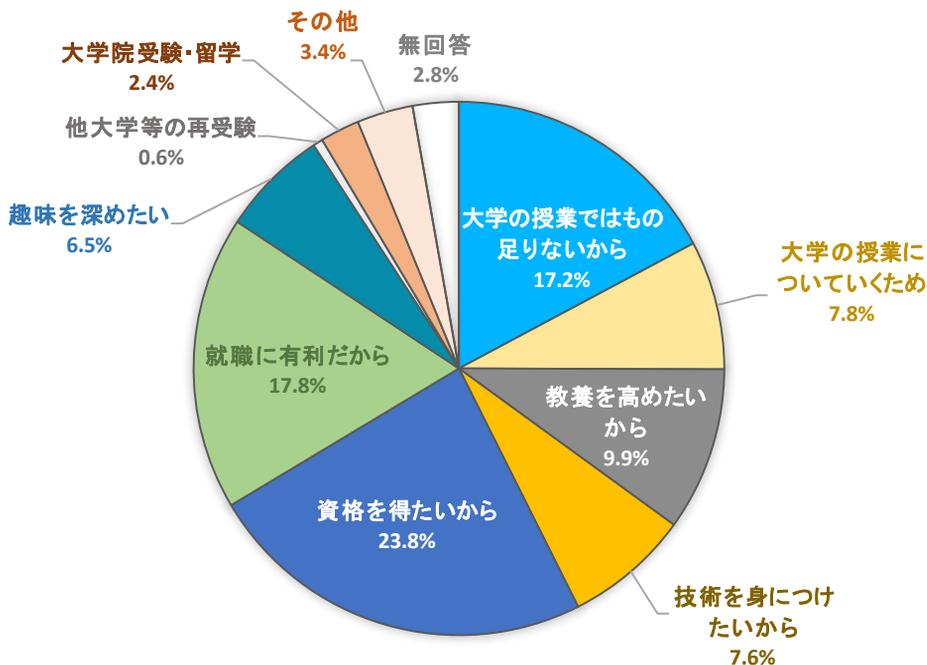
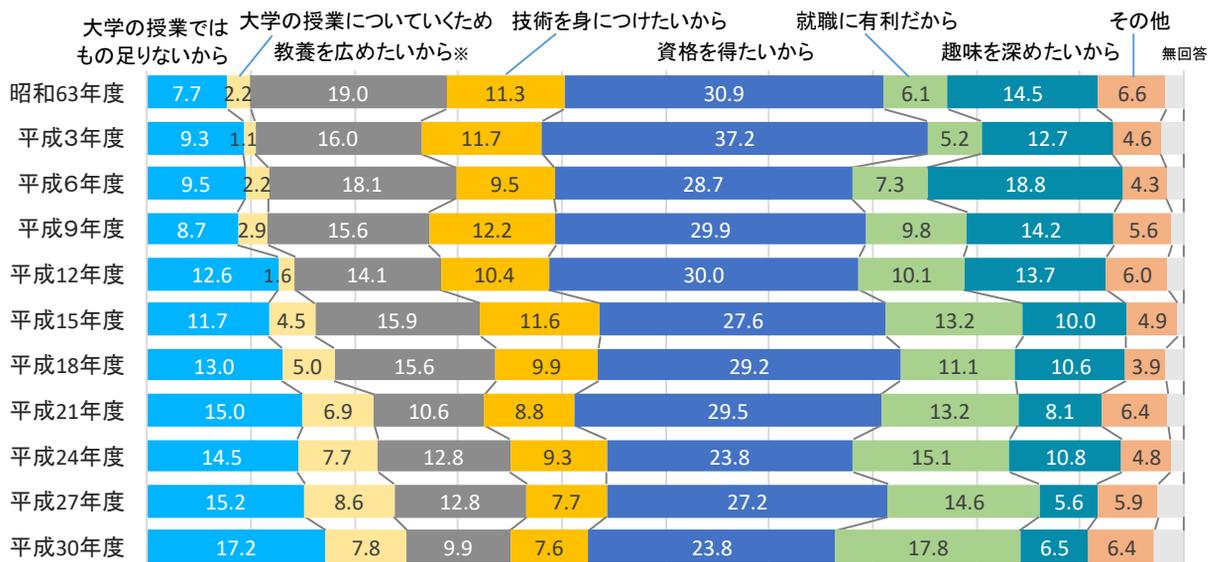


図4-3-2 学外の勉学の理由の経年変化(「学外の勉学経験がある」学生全体)



※…平成30年度は「教養を高めたいから」

#### 4.学外の各種学校等の種類

学外での勉学は「語学学校（教室）」が25.0%で15年ぶりにトップ。  
 「各種資格取得学校（教室）」は平成21年度から漸減傾向。  
 景気の変動、学生指導の充実など内外の要因が背景か。

学外での勉学の種類について見ると、「語学学校（教室）」が25.0%で最も高く、「各種資格取得学校（教室）」（23.7%）、「各種予備校（公務員試験対策・大学院受験等）」（14.6%）が続いています。

経年変化を見ると、「語学学校（教室）」は平成6年をピークに漸減傾向が続いていましたが、今回は3年前より5.7ポイント増加しています。「各種資格取得学校（教室）」は平成3年度と平成21年度にピークがあり、最近の9年間では12.3ポイント減少しています。景気の変動と連動した資格ブーム、就職を目標としたカリキュラムの改訂やリメディアル教育（補習授業）など学生指導の充実、といった内外の要因が背景にあると考えられます。

図4-4-1 学外の各種学校等の種類(平成30年度「学外の勉学経験がある」学生全体)

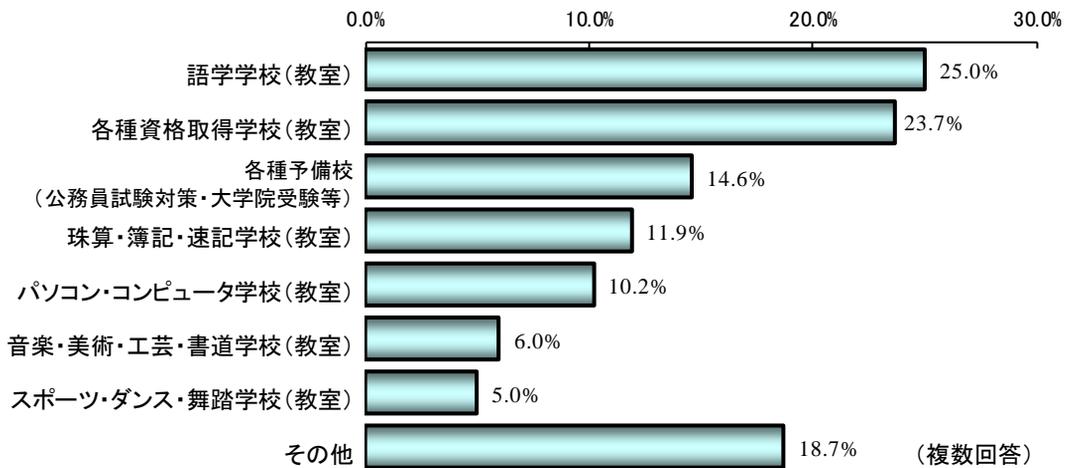
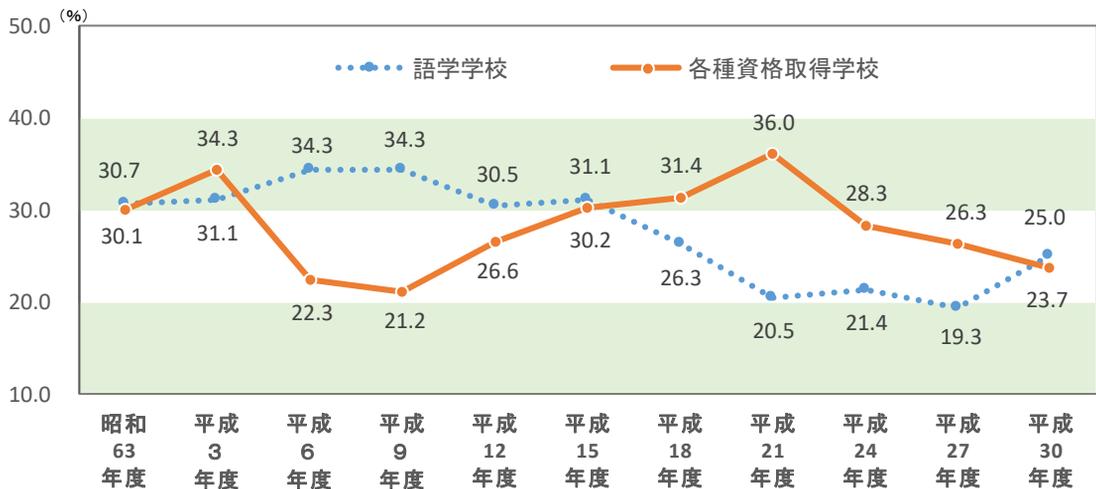


図4-4-2 学外の各種学校の種類(上位2種)の経年変化(「学外の勉学経験がある」学生全体)



## 5. 課外活動への参加状況

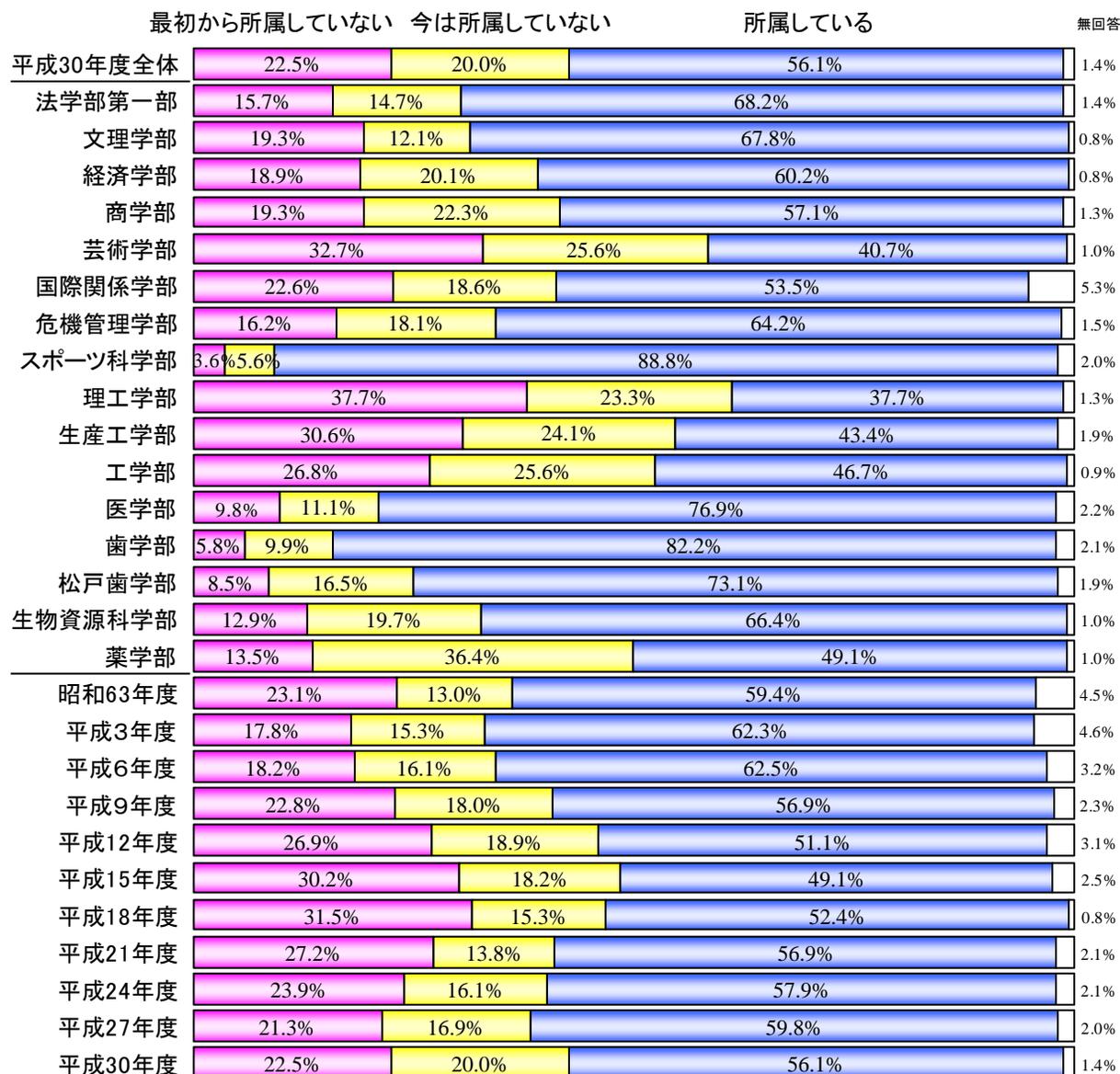
クラブ・サークルの所属率は56.1%。スポーツ科学部と医歯系学部で高く、学部間に差。  
クラブ・サークル活動は近年再び活発になっていたが、3年前よりクールダウン？

学生全体で見ると、調査時点(平成30年6月)のクラブ・サークル所属率は56.1%、「今は所属していない」が20.0%、「最初から所属していない」が22.5%となっています。

学部別に所属率を見ると、スポーツ科学部の88.8%を最高に、医歯系学部の学生で80%前後と高い一方、理工学部・芸術学部・生産工学部では40%前後にとどまっております、学部により大差が見られます。

経年変化を見ると、所属率は平成6年度の62.5%をピークに漸減し、平成15年度には半数を割り、平成18年度から増加に転じていましたが、平成30年度は3年前より3.7ポイント減少しています。近年再び活発化していたクラブ・サークル活動はクールダウンしたようです。

図4-5 クラブ・サークルへの参加の有無(平成30年度全体・学部別・経年変化)



## 6.課外活動への参加理由

クラブ・サークルへの参加理由は、人間関係の構築が主、自己実現欲求が従。  
人間関係については、医歯薬系学部で縦の関係を求める傾向が根強い。

クラブ・サークルに参加する理由を見ると「仲間がたくさんできる」(47.1%)と「先輩・後輩とのつながりができる」(43.4%)が他の理由を大きく上回っており、人間関係の構築が主要な理由となっていることがわかります。「趣味と実益が兼ねられる」(21.3%)「自主的活動(やりたいこと)ができる」(17.1%)といった自己実現欲求が続いています。

「先輩・後輩とのつながりができる」という参加理由は、歯学部(71.4%)、薬学部(64.0%)、医学部(60.1%)などで参加理由のトップとなっており、在学中から縦関係のコミュニケーションを重視していることがうかがえます。この傾向は、医歯系学部では調査開始年から、薬学部では平成24年度から継続しています。

経年変化を見ると、「仲間がたくさんできる」という理由は平成3年度をピークに漸減傾向、「先輩・後輩とのつながりができる」も平成24年度から漸減傾向となっています。

図4-6-1 クラブ・サークルへの参加理由(平成30年度「所属している」学生全体)

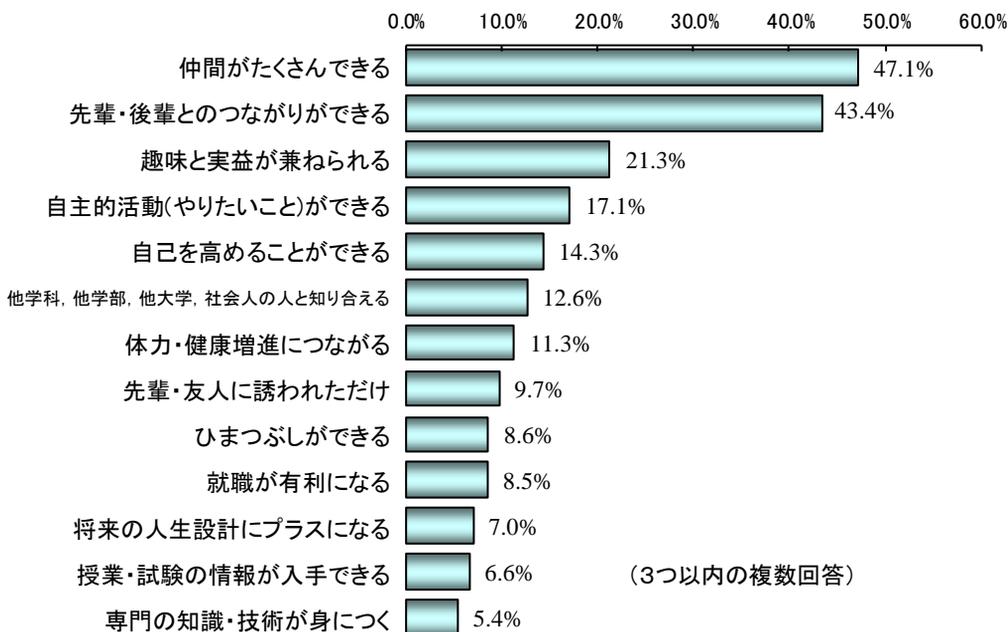
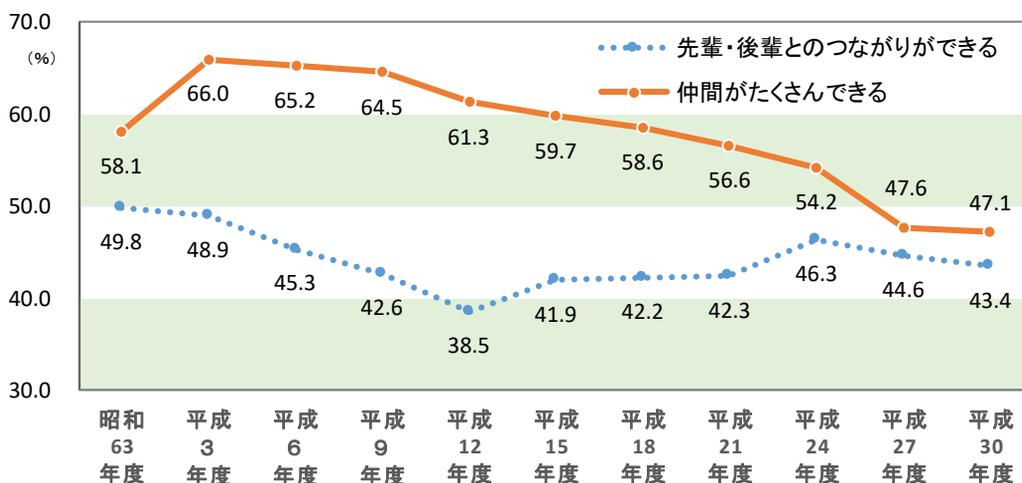


図4-6-2 クラブ・サークルへの参加理由(上位2項目)の経年変化(「所属している」学生全体)



## 7. 課外活動への不参加理由

クラブ・サークルに参加しない理由のトップは「関心がない(なくなった)」。  
無関心層が急速に拡大。

クラブ・サークルに参加しない学生の参加しない理由を見ると、「クラブ・サークルに関心がない(なくなった)」が28.3%でトップ、「アルバイト・通学等のため時間的に困難である(であった)」(15.8%)、「クラブ・サークルに疑問(運営の仕方・人間関係など)をもっている(もった)」(10.4%)、「入りたいクラブ・サークルがない」(10.2%)が続いています。

経年変化を見ると、「入りたいクラブ・サークルがない」という理由は昭和63年度の19.2%から概ね減少傾向、一方で「クラブ・サークルに関心がない(なくなった)」は昭和63年度の14.1%から漸増傾向が見られ(この3年間で5.9ポイント増)、無関心層が急速に拡大しているようです。

図4-7-1 クラブ・サークルへの不参加理由(平成30年度「所属していない」学生全体)

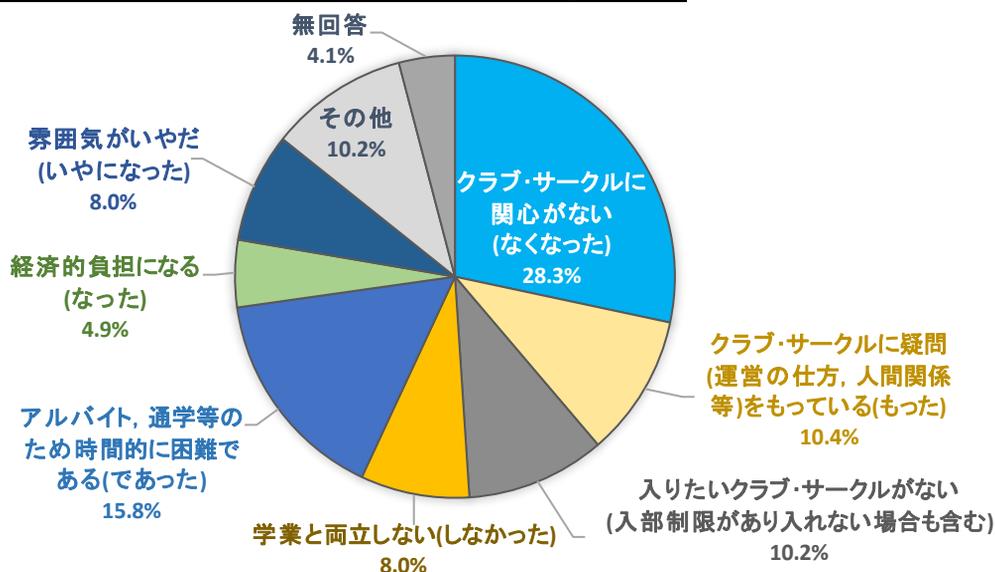


図4-7-2 クラブ・サークルへの不参加理由の経年変化(平成30年度「所属していない」学生全体)

| 年度     | クラブ・サークル |             | 入りたいクラブ・サークルがない |          | 時間的に困難である |     | 雰囲気がいやだ |      | その他 | 無回答 |
|--------|----------|-------------|-----------------|----------|-----------|-----|---------|------|-----|-----|
|        | 関心がない    | クラブ・サークルに疑問 | 学業と両立しない        | 経済的負担になる | その他       | 無回答 |         |      |     |     |
| 昭和63年度 | 14.1     | 14.1        | 19.2            | 6.1      | 18.3      | 5.7 | 10.3    | 9.6  |     |     |
| 平成3年度  | 17.5     | 13.7        | 18.4            | 7.6      | 14.8      | 5.2 | 11.8    | 8.7  |     |     |
| 平成6年度  | 14.7     | 13.8        | 16.7            | 6.4      | 18.0      | 5.0 | 12.4    | 10.1 |     |     |
| 平成9年度  | 16.6     | 13.0        | 17.8            | 5.7      | 19.7      | 3.4 | 11.7    | 10.0 |     |     |
| 平成12年度 | 17.0     | 11.1        | 16.1            | 7.5      | 20.2      | 5.9 | 10.0    | 9.5  |     |     |
| 平成15年度 | 17.0     | 10.1        | 16.7            | 10.4     | 21.9      | 4.1 | 8.5     | 9.3  |     |     |
| 平成18年度 | 17.9     | 9.3         | 14.7            | 12.1     | 22.8      | 4.0 | 7.3     | 9.1  |     |     |
| 平成21年度 | 21.7     | 8.9         | 12.8            | 12.2     | 20.9      | 5.0 | 6.8     | 7.9  |     |     |
| 平成24年度 | 20.3     | 8.7         | 12.8            | 10.9     | 21.9      | 5.3 | 6.3     | 9.6  |     |     |
| 平成27年度 | 22.4     | 9.7         | 14.2            | 9.2      | 17.1      | 4.3 | 8.8     | 9.9  |     |     |
| 平成30年度 | 28.3     | 10.4        | 10.2            | 8.0      | 15.8      | 4.9 | 8.0     | 10.2 |     |     |

## 8. NU祭・学部祭・体育大会等の行事への参加率

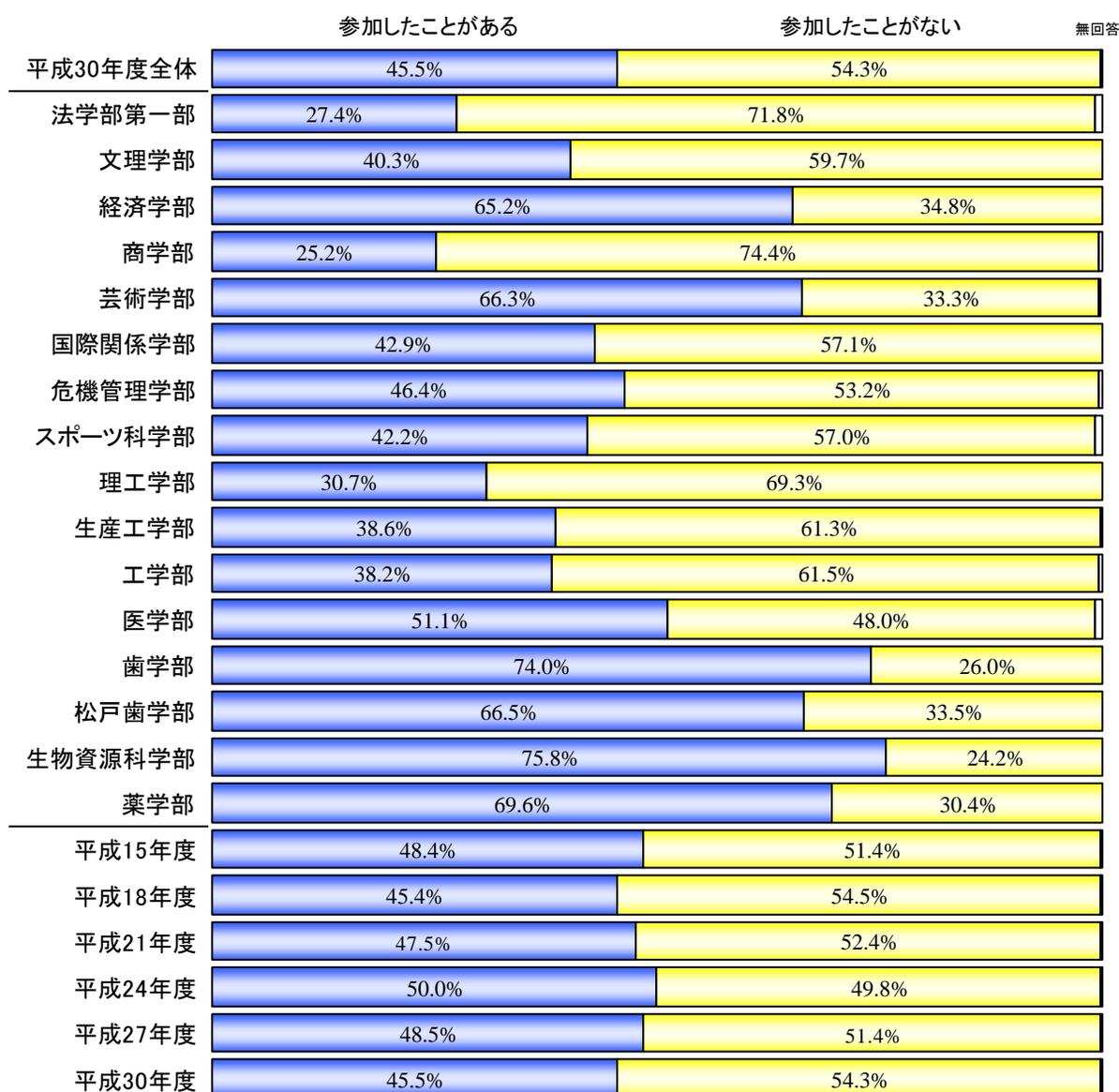
NU祭・学部祭・体育大会等の行事へ参加したことがある本学学生は45.5%。  
6年前より減少傾向。学部別に見ると、参加率は2極化傾向。

NU祭・学部祭・体育大会等の行事への参加について本学学生全体で見ると、「参加したことがある」が45.5%と半数を下回っています。

学部別に参加率を見ると、生物資源科学部・歯学部で75%前後、薬学部・松戸歯学部・芸術学部・経済学部で60%台後半と高い一方、商学部・法学部第一部で30%未満、理工学部・工学部・生産工学部では30%台と低く、2極化傾向が見られます。

経年変化を見ると、NU祭・学部祭・体育大会等の行事への参加率は、平成18年度の45.4%から漸増傾向にありましたが、平成27年度以降は減少傾向が見られます。

図4-8 NU祭・学部祭・体育大会等の行事への参加率(平成30年度全体・学部別・経年変化)



## 9. 参加行事の種類と不参加理由

参加はキャンパスごとの「学部祭」が主であり、学部の「体育大会」が続く。  
3年前より、「学部祭」の参加率は微増、「体育大会」「NU祭」は微減。

参加行事について見ると、「学部祭（学部行事）」が69.4%で最も高く、「体育大会（学部行事）」が31.7%で続いています。学部ごとにキャンパスが分かれているため学部や学科、クラス・ゼミの行事への参加が中心になっており、「NU祭」や「日本大学体育大会」といった本学全体の行事はそれぞれ10%未満にとどまっています。

経年変化を見ると、「学部祭」の参加率は平成21年度の76.2%をピークに減少傾向にありましたが、3年前より微増しています。「体育大会」「NU祭」とも平成24年度が最低で平成27年度は増加していますが、今回は3年前より微減となっています。

不参加理由としては、「興味がない」が31.7%で最も高くなっています。「暇がない」（9.0%）、「面倒である」（5.0%）、「アルバイトで忙しい」（3.6%）、「つまらない」（3.6%）等、後ろ向きな理由は様々です。

図4-9-1 参加行事(平成30年度「参加経験がある」学生全体)

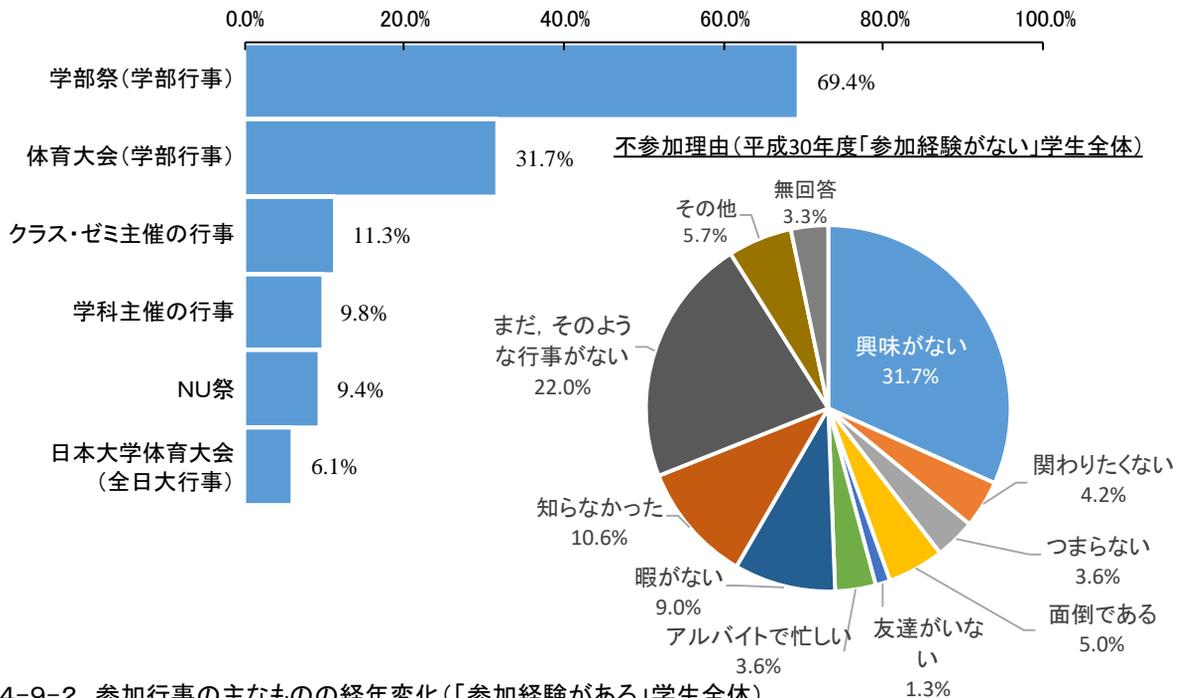
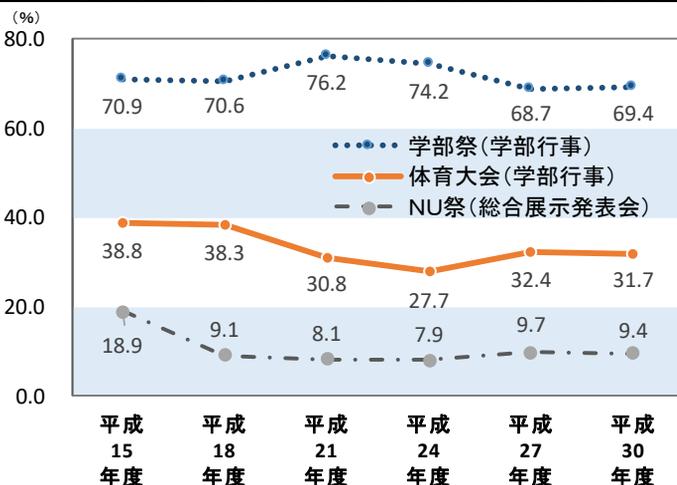


図4-9-2 参加行事の主なものの経年変化(「参加経験がある」学生全体)



## 10. 参加したい学部間交流を図る行事

学部間交流行事の参加希望は、「全日大文化フェスティバル」と「映画祭」が約20%。  
学部により希望する行事に差。映画祭の支持率は安定的。

本学学生全体で見ると、学部間の交流行事として参加したい行事は「一同に集まる全日大文化フェスティバル」が19.5%、「映画祭」が19.2%でほぼ並んでおり、「音楽祭」（17.2%）、「学部対抗のスポーツ競技会」（15.9%）、「一同に集まる全日大運動会」（15.1%）の順で続いています。「講演会」「学部対抗の学術文化コンクール」は6%台にとどまっております。学術的で硬派な行事より文化的な催しやスポーツによる学部間の交流を望む学生が多いことがうかがえます。「一同に集まる全日大文化フェスティバル」は商学部・危機管理学部・法学部第一部等9学部で、「映画祭」は芸術学部・危機管理学部・国際関係学部等5学部で、それぞれ20%以上、また「学部対抗のスポーツ競技会」はスポーツ科学部では35.5%の学生が支持しています。

経年変化を見ると、「全日大文化フェスティバル」「音楽祭」とも6年前から参加希望が下降傾向となっていますが、「映画祭」は9年前からほぼ横ばいと安定した支持を受けています。

図4-10-1 参加したい学部間交流を図る行事(平成30年度全体)

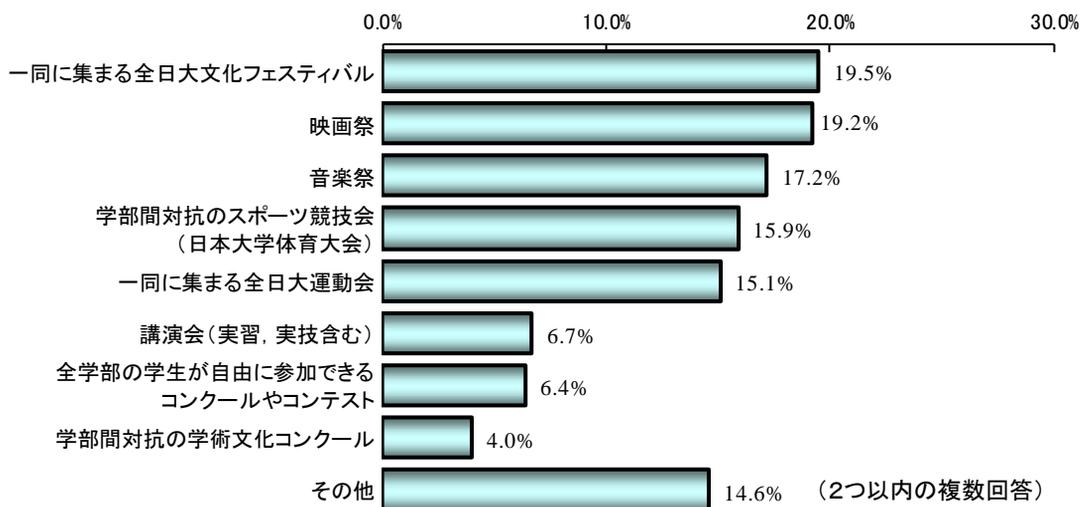


図4-10-2 参加したい学部間交流を図る行事(上位4項目)の経年変化(全体)

